

新 市 町

東海村



根本町長

1. 沿 章

この村は水戸から北東15軒の附近に位し、東は太平洋の波瀾に臨み、北は久慈川を境として日立市に、西南は那珂町および勝田市に隣接している肥沃な農耕地帯で、太平洋に面する砂浜は東南那珂湊市阿字ヶ浦から北東久慈川河口にかけて弧状を画き、怒濤さかまか波と北東風にあらわれ、風光明媚な白砂青松の海浜となつている。この地方は多くの古墳貝塚によると石器時代特に縄文式中期頃から部落が形式されていたようで、中世には久慈郡の美和郷、神崎郷に属し、延暦16年に坂上田村麿が蝦夷征伐にきた際如意輪寺を創建したと伝えられ、また石田三成の検地後は那珂郡に編入されたその後慶長7年佐竹氏が秋田へ移封されてから徳川氏の所領として明治維新を迎えたのである。戦後工都日立、勝田の両市に挟まれ農村としては特殊な位置を占めていたが、昭和30年3月31日には村松、石神の両村が合併その名も雄壮な東海村が誕生し、面積35.52平方軒、世帯数1,912、人口12,025人(男6,063人、女5,962人)を有することになったが、海岸地帯に昭和32年8月から日本原子力研究所のわが国最初の原子炉が建設され、また33年8月には原子燃料公社の東海精練所が完成し、今や近代科学のシンボルである原子力工業基地として大きな脚光を浴び一躍世界の檜舞台にのし上り、今後の大きな発展が期待される。

2. 産 業

まず農業面を見ると、農家戸数1,525、農家人口9,326人(男4,599、女4,727)、耕地面積1,561町(田453町、畑1,104町、樹園地4町)に達し、なかでも畑地の大麦358町、小麦410町、なたね135町、大豆137町、さつまいも581町、たばこ49町などが目立っている。(昭和32年冬、夏期農業調査)この特産物は何と云つても、さつまいも320万メ、かんそういも30万メ、苗木類250万本で、東北、北海道方面へ出荷して非常に好評を受けている。次に畜産面を見ると、乳牛46頭、役牛406頭、馬69頭、めん羊15頭、山羊111頭、豚1,332頭、兎98頭、にわとり7,014羽に達しているが、(昭和32年2月冬期農業調査)養豚組合の統合強化と種豚70頭の貸付に伴つて豚の飼育が急速に普及し、今では肉豚約1,000頭、仔豚1,000頭を毎年芝浦市場をはじめ県内に出荷して大きな収入源となつている。また酪農経営農家も適切な指導と奨励によつて次第に多くなり、農業経営の多角化と機械化が進んできた。ここでは毎年村松虚空蔵尊の縁日に牛、豚の畜産共進会を開いて大きな成果を取っている由。

次におもな農機具の普及状況を見ると、電動機104台、石油発動機352台、トラクタ5台、動力耕うん機3台、脱穀機423台、足踏脱穀機674台、動力糶すり機63台、製粉機29台、精米麦機123台、噴霧機109台、動力製菓機42台、製糰機239台、畜力カルチベーター101台、畜力碎土機91台、畑用播種機200台、畜力用すき199台にのぼつている。(昭和32年2月冬期農業調査)

次に商工業面を見ると、まず法人および常用労働者を

4. 財 政

昭和32年度一般会計歳入歳出予算(11月)

(単位円)

歳入	村税	地方交付税	公営企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	村債	合			
20,891,221	8,533,000	1,140,100	194,000	497,752	296,968	120,002	150,001	550,000	1,254,301	400,000	33,888,838				
歳出	議会費	役場費	警消防費	土木費	教育費	社会及び保健労働施設費	健康衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合
993,100	8,723,268	1,821,922	7,887,796	299,624	1,126,142	142,364	154,127	188,570	646,551	2,518,888	838,338	33,888,838			

有する個人商店数19、従業者65名、年間販売額5,157万円、常用労働者のいない個人商店数95、従業者159名、年間販売額(6月)667万円であり、(昭和31年7月調査)大部分が小規模な雑貨、衣服身廻品、食料品工業である。また工場数は7、従業者85名、年間製造額6,802万円に過ぎない。(昭和31年12月工業調査)

3. 教育文化

ここには小学校3、中学校1あつて、小学児童1,547名(男774、女766)、中学生徒709名(男352、女357)に達しており、(昭和32年5月学校基本調査)、村として合併前の昭和23年にすでに他市町村に先がけて中学校統合を実現し、学校施設の拡充強化と教育内容の充実を図つている。また青年婦人団体も公民館を中心として報の発行をはじめ、生活改善、冠婚葬祭の簡素化、観賞会、講演講習会、親と子の座談会、勤労奉仕、T撒布、敬老会、運動会、産児制限、衛生講話などを催し新しい村作りの大きな推進力となつている。国民健康保険組合は32年7月に全村加入を実現し、33年1月在で加入世帯数1,406、被保険者7,856名となつており、村からも60万円支出している。消防団も合併とともに組織の統合強化を図り、自動三輪車ポンプ1台、ガソリンポンプ6台、腕用ポンプ17台、貯水槽54基を有し、防火対策の万全を期している。

ここには名所旧蹟が多く、まず昔から十三詣で帯に知られる村松虚空尊は大同2年に弘法大師が東遷の際創立し、平城天皇の御代に勅額を村松山神宮に賜わり、足利、江戸時代にかけて、佐竹、徳川氏のなごりを受け隆盛をきわめた。またその後方には大神、手力雄命、栲幡千千姫命を祭り千数百年前に祀られ、徳川光圀公が元禄9年伊勢皇大神宮の分霊をたどると伝えられる大神宮とその御神池の阿漕浦は片目川の伝説で知られている。また砂丘から松林、海辺の自然美は水戸八景の一つとして「村松の晴嵐」に付けられた。さらに真崎と舟塚の貝塚と古墳は非特規模も大きく、縄文式文化の教育研究に貴重な資料となっている由。また真崎浦は村松沼、寺沼、素絹の沼とされ、安政年間にならぬ西野長次郎氏が水戸藩の御用を得てこの沼附近一帯の開墾をはじめ、今では美しき園が100町を越えるようになっている。昭照の遷都と昭和12年に創立されたわが国屈指の国立療養所があり、結核予防治療の一大センター、別当古墳、寺、石神城跡などがあるが、さらに日本原子力研究所、日本唯一の原子力センターとして県内は無論全国有名、無名の見学者で毎日ぎわつている由。

根本村長の抱負

1. 農業経営の高度化を図つてゆく。
2. 小・中学校の整備は、その施設のぎでなく都市と相まつて都市に劣らざる施設強化を図りたい。
3. 都市計画は早急に立てる準備をせねばならない。
4. 将来固定資産税の増収に伴い、住民税の引き下げを考慮する。
5. 以上の点は相互関連があり、基本的には村民の立場から村政を行つてゆく。

の 横 顔

河内村



谷山 清正 村長

1. 沿革

この村は竜ヶ崎市からバスで約35分、稲敷郡の最南端に位し、東は金江津村を経て東村と沃土を連ね、南は坂東太郎利根川を隔てて千葉県栄町に、西は北相馬郡利根町および竜ヶ崎市に、北は新利根川を境に新利根村にそれぞれ隣接し、文字どおり関東平野を形成する沃野地帯であるその昔この地方はほとんど葦の原で泥炭地帯が多く、信太郡東条荘、河内郡谷原領に属し、徳川時代には幕府の直割領として代官の支配を受けていたが、生板地区を除いてはほと

2. 産業

農業面を見ると、当村は利根川の増水により、過たびか風水害の洗礼を受け、利根堤防の補強工事もこの手によって着々進捗し、災害との闘いもようやく打ち切れた。過去15、6年にわたる土地改良事業の功によって泥炭地帯の大部分は美しい二毛作田が続き、農家戸数も1,282戸、農家人口3,061人(男3,914,150)、耕地面積1,620町(田1,328町、畑290町、山林原野214町を有するようになった。なお入予定の金江津村には水田873町、畑153町、原野60町を有している。(昭和32年8月夏期調査)おもな農産物として米と麦類で農家収入の大きな源泉となっており、最近では折衷苗代の普及と陸田の奨励に成功し、施設の整備と相まって、なお一層の収入増加が期待される。また東京市場への出荷を目標として蔬菜園芸作物の改良進歩がめざましい。

畜産面を見ると、乳牛37頭、役牛602頭、馬98頭、豚にわたり6,100羽に達し、(昭和32年2月冬期)養豚組合、酪農組合の育成強化と適切な指導のもと次第に有畜化が進んでいる。またおもな農機具の普及状況を見ると、電動機571台、石油発動機140台、動力機167台、精米機492台、精麦機341台、畜力カッター39台、動力耕うん機11台、脱穀機711台、すり機423台、噴霧機5台、人力噴霧機437台、動力機28台、製糶機268台で次第に農業の機械化が進んでいる。この地方は農家の副業としてわら加工が非常に盛んで年間約10万枚の束を出荷していることは注目すべきである。

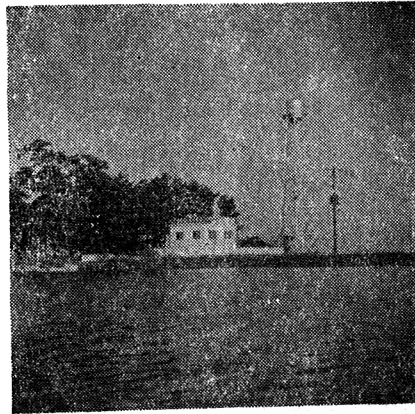
商工業面を見ると、まず法人および常用労働者を有する個人商店6、従業者26名、年間販売額6,140万円、常用労働者のいない個人商店83、従業者171名、月間販

売額(6月)862万円に過ぎず、工場数も5、従業者18名、年間製造出荷額253万円ではほとんど見るべきものはない。(昭和31年7月、12月商業、工業調査)

3. 教育文化

ここには小学校3、中学校3あつて、小学児童1,313名(男695、女618)、中学生徒601名(男286、女315)を有しており、(昭和32年5月学校基本調査)、村当局の教育優先の方針にもとづいて常に学校施設の整備拡充を行っている。昨年6月には長竿中学校の164坪を焼失したが、工費200万円を投じ取りあえず2教室を小学校に増築して急場をしのいだ。33年中には中学校の統合を実現し、近代的施設を有する中学校が誕生することも遠いことではない。公民館活動も活発で、婦人学級および青年学級も農閑期を利用して開設しており、冠婚葬祭の簡素化、時間の励行、迷信の打破、衣食住の改善などを行い、立派な成績を取っている。特に長竿下組部落は32年に生活改善のモデル地区となり、県からも表彰を受けた。また婦人会では季節保育所を設けて150名を収容し、村民から非常に感謝されている。国民健康保険組合は全村加入を実現し、30年4月には村営の診療所が開設され、病室8を有し、医師外職員5名が村民の健康管理と保健衛生に縦横の活躍を続けている。また村民待望の簡易水道工事は32年3月に完成したが、総工費8,400万円、最大給水能力5,000人分、設置世帯800戸の近代的設備を有し、利根川の水汲みによる労苦を一掃し、全村民の大きな喜びと誇りの一つとなっている。消防施設も年を追って拡充強化され、現在四輪車ガソリンポンプ3台三輪車ポンプ2台、手引7台、随用7台を有し、防火水槽の完備と相まって、火災予防の万全を期している。納税組合の育成強化に伴って納税成績も85%を越えるようになり、計画納税を奨励している。この地方は天然ガスの埋蔵が豊富で多くの家庭で燃料に利用しており、その工業化が将来の課題となつている。なおテレビが最近50台を突破していることも農村としては珍しいことである。

ここには名所旧蹟は少いが、富士、筑波を遠望する淨玄橋附近の釣場はまさに一幅の絵であり、田園風情にあふれる詩情ゆたかなところである。



(完成した水道施設)

4. 財政

昭和32年度一般会計歳入歳出予算

(単位円)

村 税	地方交付税	公営企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	合計				
30,165,350	6,100,000	200	152,000	390,000	791,000	1,000	—	10,000	130,000	27,739,550				
議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
542,050	6,759,660	1,569,300	1,257,000	6,114,260	470,750	284,000	2,386,220	120,000	232,500	117,500	970,000	6,809,600	1,067,710	27,739,550